

# 平成 28 年度に実施した大学機関別 選択評価に関する検証結果報告書

平成 30 年 3 月

独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構



## はじめに

大学改革支援・学位授与機構（以下「機構」という。）では、評価の経験や評価を受けた機関等の意見を踏まえつつ、常に評価システムの改善を図ることとしている。

機構では、選択評価において、毎年度、評価の終了後、評価対象校及び機構側の評価担当者（以下「評価担当者」という。）へのアンケート調査を実施し、その結果等をもとに評価の有効性、適切性について検証を行い、評価内容・方法等の改善・充実すべき点を把握し、翌年度に実施する評価に反映させている。

平成 28 年度実施の選択評価においても、これまでと同様にアンケート調査を実施して評価の有効性、適切性について検証を行い、ここに平成 28 年度実施の選択評価に関する検証結果を取りまとめた。



# 目 次

はじめに

I	機構が実施した大学機関別選択評価の概要	1
II	平成 28 年度実施の選択評価に関する検証	
1.	検証の実施方法	5
2.	項目別の検証	
(1)	選択評価を受けた理由について	7
(2)	選択評価事項及び観点について	8
(3)	研修会・説明会について	9
(4)	自己評価書について	10
(5)	書面調査・訪問調査について	11
(6)	評価結果（評価報告書）について	13
(7)	評価の効果・影響について	14
(8)	評価の作業量等について	15
(9)	設けることが望ましい選択評価事項について	16
(10)	評価についての全般的な意見・感想について	17
3.	対象校の取組及びアンケートで寄せられた意見	
(1)	選択評価結果を受けた対象校の改善取組例	18
(2)	アンケートで寄せられた意見と機構の取組例	18

参考資料

1	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【対象校】	21
2	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【評価担当者】	25
3	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （自由記述）【対象校】	28

4	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （自由記述）【評価担当者】	33
5	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【対象校】 （大学用）	37
6	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】 （大学用）	52

## I 機構が実施した大学機関別選択評価の概要

平成 28 年度に実施した選択評価の検証を示すに当たって、まず機構が実施した大学の選択評価の概要について触れておく。

機構の実施する認証評価は、大学の正規課程における教育活動を中心として大学の教育研究活動等の総合的な状況を評価するものであるが、大学にとって研究活動は、教育活動とともに主要な活動の一つであり、さらに大学は、社会の一員として、地域社会、産業界と連携・交流を図るなど、教育、研究の両面にわたって知的資産を社会に還元することが求められており、実際にそのような活動が広く行われている。

機構は、大学評価基準とは異なる側面から大学の活動を評価するために、「研究活動の状況」（選択評価事項 A）、「地域貢献活動の状況」（選択評価事項 B）及び「教育の国際化の状況」（選択評価事項 C）を設定し、大学の希望に基づいて、これらの事項に関わる活動等について評価を行っている。

選択評価事項は、まず、平成 17 年度に選択的評価基準として「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の評価を開始し、評価体制が整備されるのを待って、翌平成 18 年度より「研究活動の状況」の評価を開始し、これら二つの事項を選択的評価事項として定めた。機構では、選択的評価事項に関する評価を発展させ、平成 23 年 3 月に大学機関別選択評価に改め、「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」の二つの事項を選択評価事項とし、平成 24 年度から評価を開始するとともに、平成 25 年度からは「教育の国際化の状況」を新たに追加し評価を実施している。

### 1. 目的

選択評価は、各大学の個性の伸長に資するよう、以下のことを目的として行っている。

- (1) 評価結果を各大学にフィードバックすることにより、各大学の教育研究活動等の改善に役立てること。
- (2) 大学の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

### 2. 実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立大学の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる大学機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象大学（以下「対象校」という。）の状況に応じた評価部会を編成し、評価を実施した。

評価部会には、大学の教育分野やその状況が多様であること等を勘案し、対象校の学部等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

### 3. 評価のプロセス

評価のプロセスの概要は、下記のとおりである。

#### (1) 大学における自己評価

大学は、機構が用意した『自己評価実施要項』に従って自己評価を実施し、自己評価書を作成した。

#### (2) 機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

- ① 書面調査は、『評価実施手引書』に基づき、対象校から提出された自己評価書（大学の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象校の状況を調査・分析した。
- ② 訪問調査は、『訪問調査実施要項』に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。
- ③ 選択評価事項ごとに、自己評価の状況を踏まえ、その評価事項に関わる大学が有する目的の達成状況等について評価を実施した。  
なお、選択評価事項は、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されている。目的の達成状況等については、その個々の内容ごとに行うのではなく、基本的な観点の分析状況を総合した上で、選択評価事項ごとに行った。
- ④ 選択評価事項ごとに、取組が優れていると判断される場合や、改善の必要が認められる場合等には、その旨の指摘も行った。
- ⑤ 評価結果については、「目的の達成状況が非常に優れている」、「目的の達成状況が良好である」、「目的の達成状況がおおむね良好である」、「目的の達成状況が不十分である」の4段階で記述し、公表した。

### 4. スケジュール

(1) 評価実施の前年度の平成27年5月から6月にかけて、国・公・私立大学の関係者に対し、評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載等について説明を行うなどの研修を実施した。

(2) 平成27年7月から9月にかけて申請を受け付け、平成28年度には、以下の大学の評価を実施することとなった。

- 国立大学（1大学）  
埼玉大学（B）

- 公立大学（6 大学）
  - 前橋工科大学（B）、京都府立大学（B）、大阪府立大学（A・B）、
  - 福山市立大学（A・B）、九州歯科大学（B）、大分県立看護科学大学（A・B）、
- 私立大学（1 大学）
  - 桜美林大学（C）

(3) 平成 28 年 6 月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務を遂行できるよう、評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。

(4) 平成 28 年 6 月末に、対象校から自己評価書が提出された。

(5) 対象校からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは、次のとおりであった。

28 年 7 月	書面調査の実施
8 月	運営小委員会の開催（各評価部会間の横断的な事項の調整） 評価部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定）
10～12 月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象校の状況を調査）
12 月	運営小委員会、評価部会の開催（評価結果（原案）の作成）

(6) これらの調査結果を踏まえ、平成 29 年 1 月に評価委員会で評価結果（案）を決定した。

(7) 対象校に評価結果（案）を提示し、それに対する意見の申立ての機会を設け、それを参考に平成 29 年 3 月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定した。

## 5. 評価結果

平成 28 年度に選択評価を実施した大学の評価結果は、次のとおりとなった。

- 選択評価事項 A
  - ・ 目的の達成状況が良好である：1 大学
  - ・ 目的の達成状況がおおむね良好である：2 大学
- 選択評価事項 B
  - ・ 目的の達成状況が極めて良好である：2 大学
  - ・ 目的の達成状況が良好である：5 大学
- 選択評価事項 C

- ・ 目的の達成状況が極めて良好である：1 大学
- ＊ 「国際的な教育環境の構築」について一般的な水準から卓越している：1 大学
- ＊ 「外国人学生の受入」について一般的な水準から卓越している：1 大学
- ＊ 「国内学生の海外派遣」について一般的な水準から卓越している：1 大学

機構はこの評価結果を平成 29 年 3 月 23 日付で、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

※ 選択評価事項は機構ウェブサイトを参照のこと。

[http://www.niad.ac.jp/n\\_hyouka/daigaku/index.html](http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/daigaku/index.html)

## Ⅱ 平成 28 年度実施の選択評価に関する検証

### 1. 検証の実施方法

#### (1) アンケート調査の実施

平成 28 年度実施の選択評価の対象校及び評価担当者に対し、記名選択式回答（5 段階・2 段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

[対象校]

1. 選択評価事項及び観点について
2. 評価の方法及び内容について
  - (1) 自己評価について
  - (2) 訪問調査等について
  - (3) 意見の申立てについて
3. 評価の作業量、スケジュール等について
4. 説明会・研修会等について
5. 評価結果（評価報告書）について
6. 評価を受けたことによる効果・影響について
  - (1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について
  - (2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について
7. 評価結果の活用について
8. その他

[評価担当者]

1. 選択評価事項及び観点について
2. 評価の方法及び内容・結果について
  - (1) 自己評価書について
  - (2) 書面調査について
  - (3) 訪問調査について
  - (4) 評価結果について
3. 研修について
4. 評価の作業量、スケジュール等について
5. 評価全般について

#### (2) アンケート調査結果等の検証

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査内容から、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。その上で、評価実施過程において機構が把握した問題点

等も踏まえ、評価の有効性、適切性を検証した。

分析項目は以下のとおりである。

- (1) 選択評価を受けた理由について
- (2) 選択評価事項及び観点について
- (3) 説明会・研修会について
- (4) 自己評価書について
- (5) 書面調査・訪問調査について
- (6) 評価結果（評価報告書）について
- (7) 評価の効果・影響について
- (8) 評価の作業量等について
- (9) 設けることが望ましい選択評価事項について
- (10) 評価についての全般的な意見・感想について

#### ※アンケート調査に係る補足事項

##### 1. アンケート用紙配付日程

	平成 28 年度
対象校	平成 29 年 3 月 23 日
評価担当者	平成 28 年 12 月 28 日

##### 2. アンケートの回収状況

	回答数	回収率
対象校	8 校中 8 校	100%
評価担当者	17 名中 11 名	65%

## 2. 項目別の検証

※選択評価C「教育の国際化の状況」については、平成28年度を受審校が1校であり、匿名的・統計的な観点から今回は検証を行わず、次年度以降の検証において、あわせて集計・分析を行うこととした。

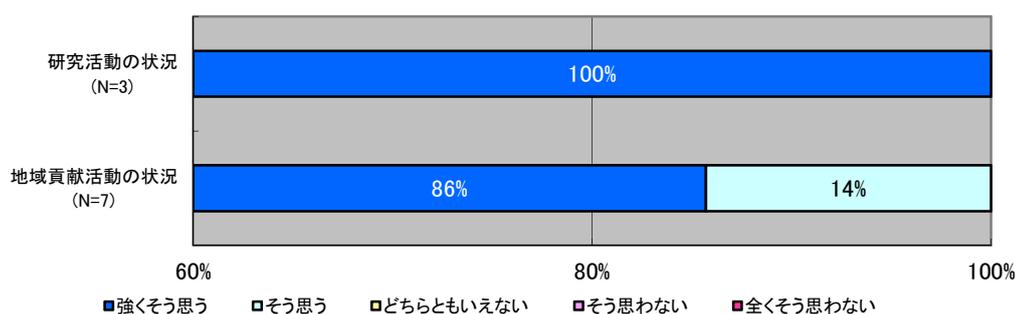
### (1) 選択評価を受けた理由について

今回、対象校が選択評価を受けた理由について、外部の視点から大学の選択評価に係る取組の客観的な検証を受け、どのように評価されるのかを認識することは、今後の取組の方向性とその内容を考えるうえで重要と判断し、選択評価を受けることとした大学や、今後の大学の選択評価に係る取組をいっそう活性化する上での指針を得るために受けた大学が見られた。

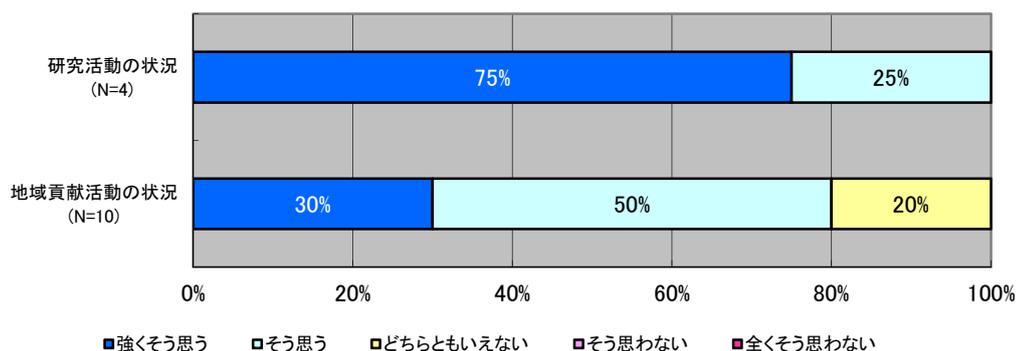
## (2) 選択評価事項及び観点について

設定された選択評価事項のテーマ「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」は適切(機関 1-②、評 1-②※) について、対象校・評価担当者に質問した結果を、それぞれ図 1 (a) (b) に示す。

全体的に肯定的であり、設定したテーマは適切なものであると考えられる。



(a) 【対象校】 選択的評価事項のテーマの適切性



(b) 【評価担当者】 選択的評価事項のテーマの適切性

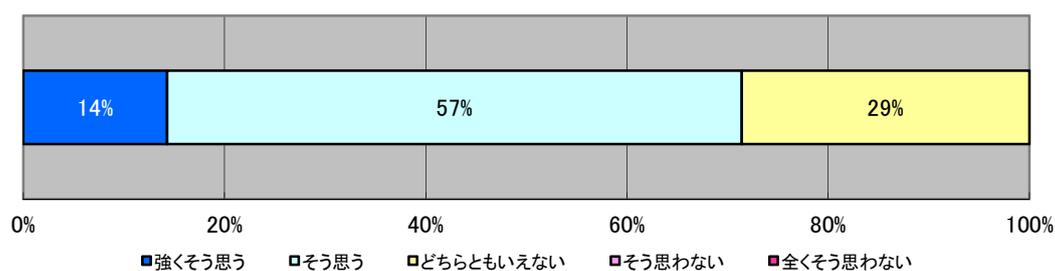
図 1 テーマの適切性

※「機関〇—〇」：参考資料「選択評価事項に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】」における設問番号に対応  
「評〇—〇」：参考資料「選択評価事項に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】」における設問  
回答率については、小数点以下四捨五入のため合計が100%にならないものもある。また、未回答は除いている。

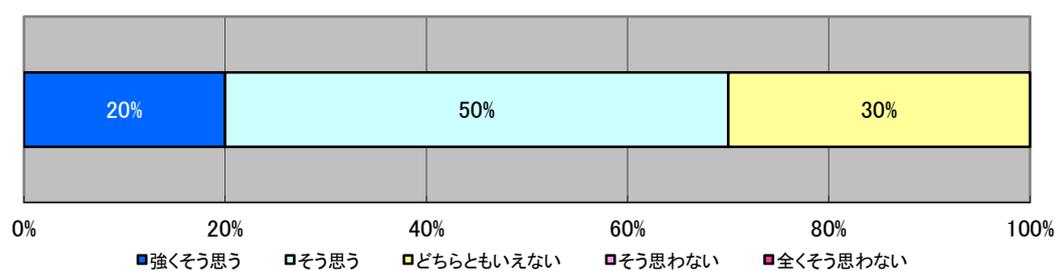
### (3) 研修会・説明会について

対象校に対し「説明会・研修会等は適切であった」（機関 4-①）か、評価担当者に対し「研修は適切であった」（評 3-①）かについて質問した結果を、それぞれ図 2 (a) (b) に示す。

対象校・評価担当者それぞれ 70%程度から肯定的な回答を得ており、おおむね肯定的に評価されている。



(a) 【対象校】 研修会・説明会等の適切性 (N=7)



(b) 【評価担当者】 評価担当者に対する研修の有効性 (N=10)

図 2 研修会・説明会の有効性

#### (4) 自己評価書について

「対象校の自己評価書は理解しやすかった」（評 2-1-①）かについて質問した結果を、選択評価事項別に示したものが図 3 である。

研究活動の状況においては 4 人すべてが、地域貢献活動の状況においては 80%の回答が肯定的となっており、理解しやすい自己評価書が作成できていたと考えられる。

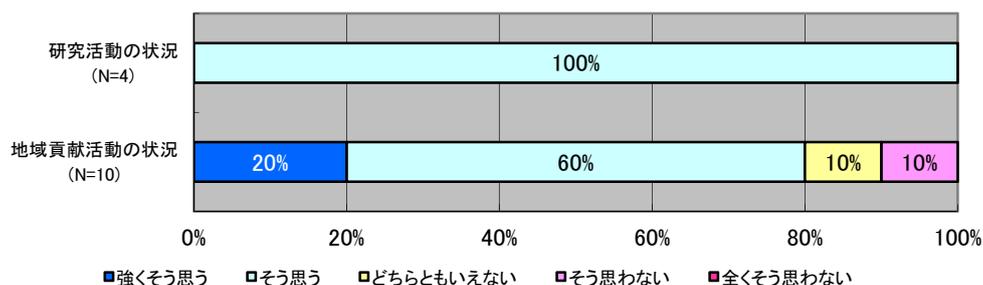


図3 【評価担当者】対象校の自己評価書の理解のしやすさ

また、「自己評価書には必要な根拠資料が適切に引用・添付されていた」（評 2-1-②）かについて質問した結果を、取りまとめたものが図 4 である。

こちらでは、研究活動の状況では肯定的な回答が 4 人すべて、地域貢献活動の状況では肯定的な回答が 90%と、対象校の自己評価書の根拠資料は適切なものであったと考えられる。

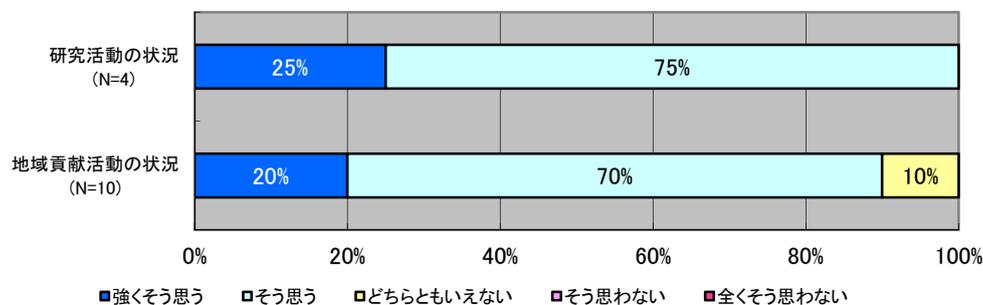
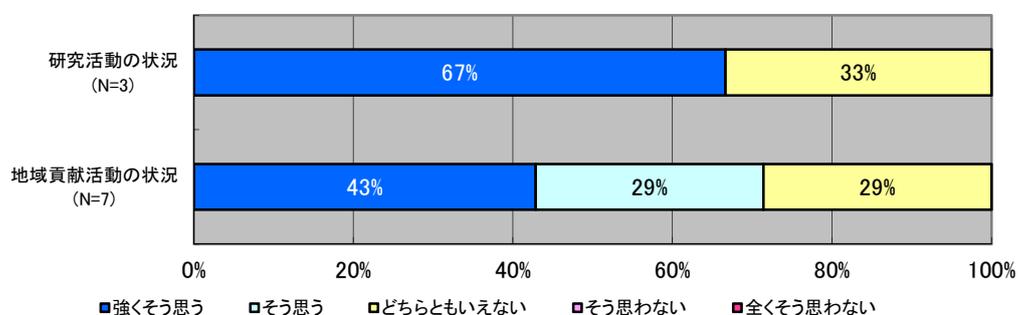


図4 【評価担当者】対象校の自己評価書の根拠資料の適切性

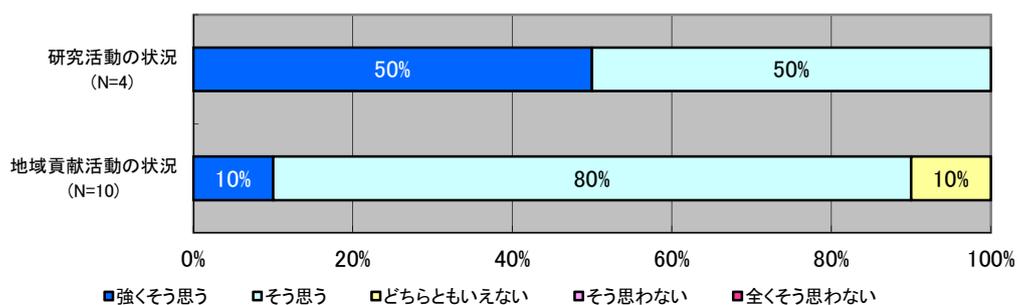
## (5) 書面調査・訪問調査について

書面調査による分析状況について、対象校に対し「内容は適切であった」（機関 2-2-①）かについて、及び評価担当者に対し、「書面調査票等の様式は記入しやすかった」（評 2-2-①）かについて質問した結果を、それぞれ図 5 (a) (b) に示す。

分析状況の適切性については、それぞれ「どちらともいえない」という回答が見られるものの、研究活動の状況においては 67%、地域貢献活動の状況では 72% から肯定的な回答が寄せられ、おおむね肯定的に評価されている。様式の適切性については、研究活動の状況においては 4 人すべて、地域貢献活動の状況においては 90% から肯定的に評価されており、適切なものと考えられる。



(a) 【対象校】「書面調査による分析状況」の適切性

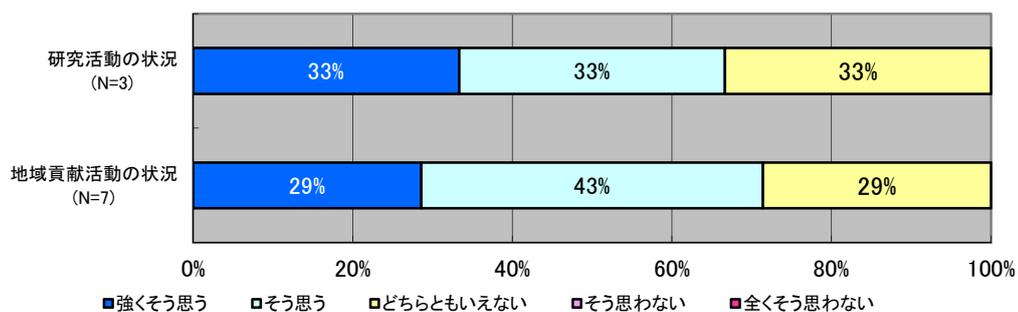


(b) 【評価担当者】書面調査等の様式の適切性

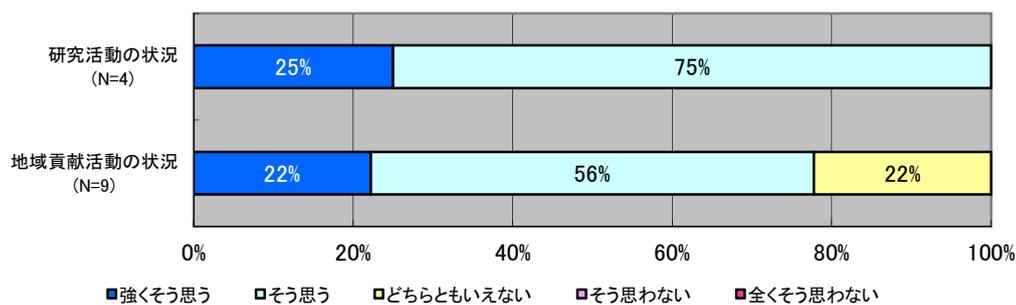
図 5 書面調査の適切性

「訪問調査時の確認事項」について、対象校に対し「適切であった」（機関 2-2-②）かについて、評価担当者に対し「回答が適切であった」（評 2-3-①）かについて質問した結果を、それぞれ図 6 (a) (b) に示す。

「どちらとも言えない」という回答が見られるものの、総じて肯定的な回答であり、それぞれおおむね適切なものであると思われる。



(a) 【対象校】「訪問調査時の確認事項」の適切性



(b) 【評価担当者】「訪問調査時の確認事項」に対する回答の適切性

図 6 「訪問調査時の確認事項」の適切性

## (6) 評価結果（評価報告書）について

評価結果(評価報告書)について、対象校に対し、構成が適切であった(機関 5-⑧) かに  
ついて質問した結果を図7に示す。また、評価担当者に対し、調査内容は「評価結果に十分  
反映された」(評 2-4-①) かについて質問した結果を図8に示す。

評価報告書の内容や構成の適切性に対しての、対象校からの肯定的な回答は、研究活動の  
状況において67%、地域貢献活動の状況において86%程度となっており、おおむね肯定的  
に評価されている。

また、評価担当者からの、調査内容が報告書に反映されたかについての肯定的な回答は研  
究活動の状況において75%、地域貢献活動の状況において90%が肯定的な回答をしており、  
各評価担当者は、報告書に意見がおおむね適切に反映されていると感じられていると考え  
られる。

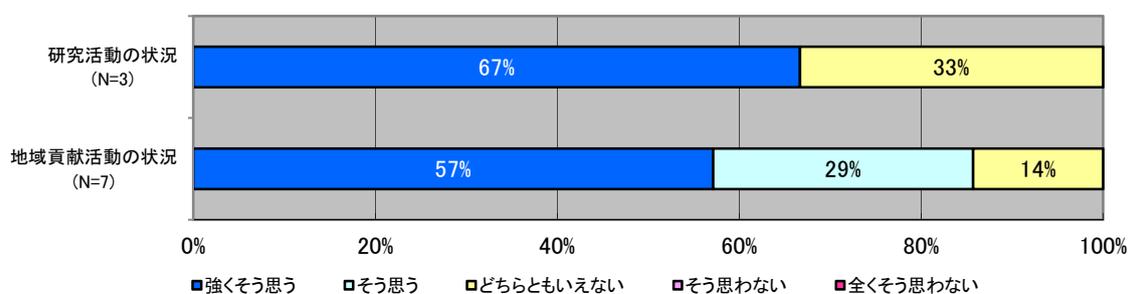


図7 【対象校】 評価報告書の内容や構成の適切性

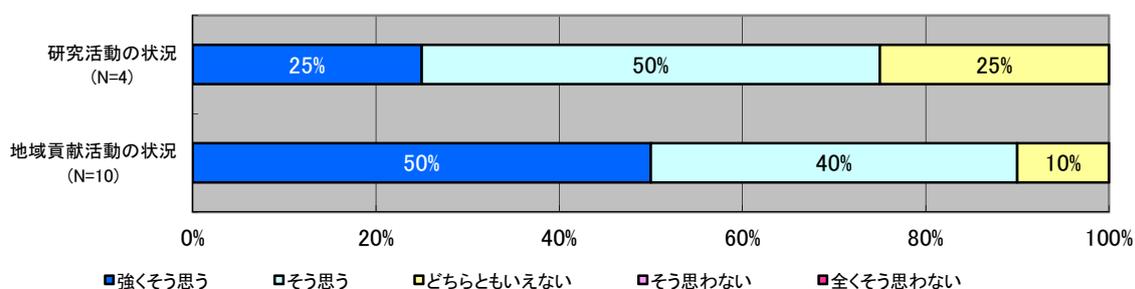


図8 【評価担当者】 評価結果の妥当性 (調査内容の反映)

## (7) 評価の効果・影響について

対象校に対し、機構の評価を受けたことによる効果・影響について、教育研究活動の改善の促進に効果があった（機関 6-2-②）かについて、また、「社会からの理解と支持が得られ（た）」（機関 6-2-③）かについて、質問した結果を、それぞれ図 9、図 10 に示す。

改善の促進及び社会からの理解と支持については、研究活動の状況においては肯定的な回答が 3 校すべてであり、地域貢献活動の状況については 86%が肯定的な回答を行っている。機構の評価を受けたことによる効果・影響は、適切なものであると考えられる。

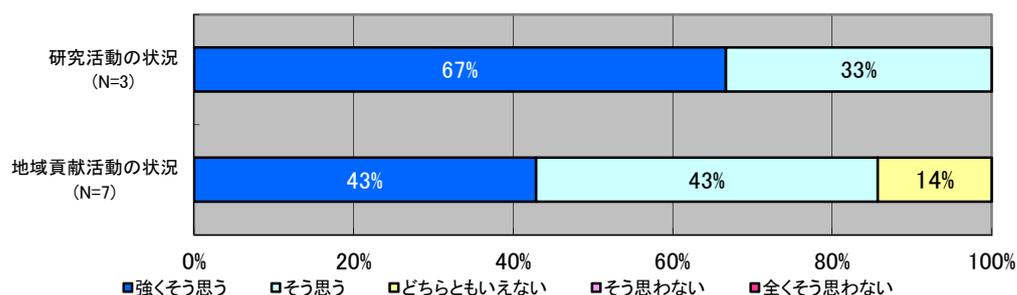


図 9 【対象校】 機構の評価を受けたことによる効果・影響（改善の促進）

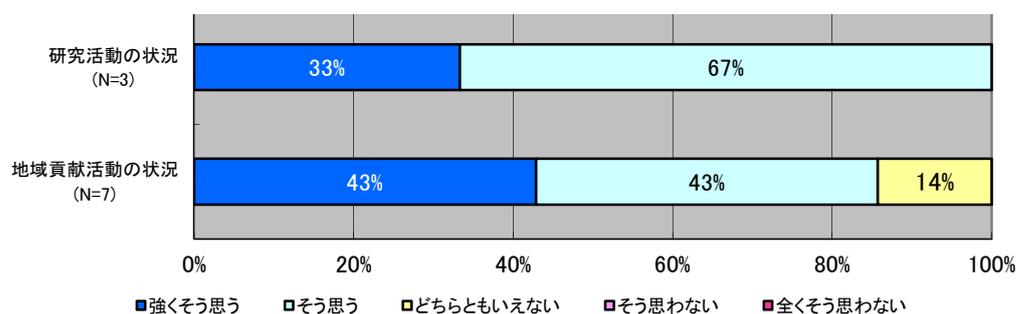
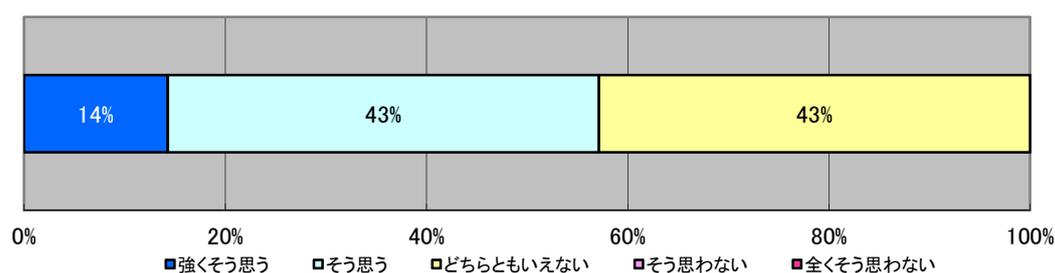


図 10 【対象校】 機構の評価を受けたことによる効果・影響（社会からの理解と支持）

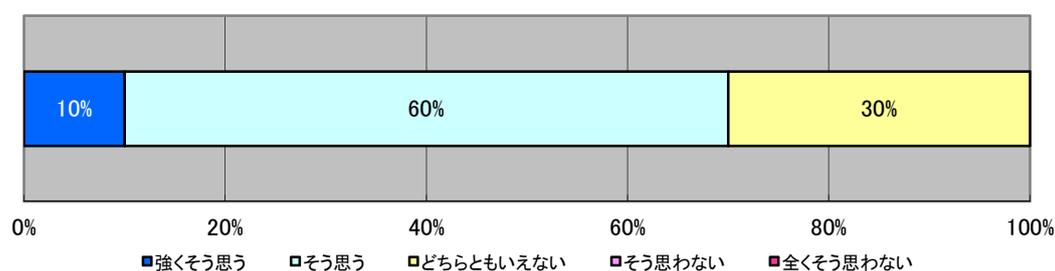
## (8) 評価の作業量等について

「評価の作業量、スケジュール等は適切であった」(機関 3-①) (評 4-①) について質問した結果が図 10(a) (b)である。

対象校においては肯定的な回答が 57%と、必ずしも多くないが、一方で評価担当者においては肯定的な回答が 70%と、おおむね肯定的に評価されている。これは、選択評価事項専門部会の設置、選択評価を担当する専門委員の選出、事務局と評価担当者との適切な役割分担等、評価の効率化を図っているためだと考えられる。



(a) 【対象校】 評価の作業量、スケジュール等の適切性 (N=7)



(b) 【評価担当者】 評価の作業量、スケジュール等の適切性 (N=10)

図 11 評価の作業量・スケジュール等の適切性

## **(9) 設けることが望ましい選択評価事項について**

現在の選択評価事項のほかに、新たに設けることが望ましい評価事項があったかについて、評価担当者から主に次のような意見・感想があった。

### **・評価担当者からの意見・感想について**

「大学のガバナンスとリーダーシップ」及び「産学連携」について設けてほしいとの意見も寄せられた。

#### **(10) 評価についての全般的な意見・感想について**

(1)～(9)に挙げたもののほか、評価全般について、評価担当者から主に次のような意見・感想があった。

##### **・評価担当者からの意見・感想について**

選択評価事項専門部会が新たに設置されたことにより、評価の信頼性・妥当性を担保するのに利点があるとの意見もあった。

### 3. 対象校の取組及びアンケートで寄せられた意見

#### (1) 選択評価結果を受けた対象校の改善取組例（代表的なものを抽出）

- 地域企業の提案型企業創出に貢献する積極的な取組の成果について、産官学の連携フォーラムの開催などを継続的に実施し、地域企業の抱える問題や要望に、つねに配慮していく体制を今後も拡充していく。

#### (2) アンケートで寄せられた意見と機構の取組例（代表的なものを抽出）

##### 【意見】

##### (対象校)

- 主な優れた点について、機構から積極的な情報発信があると、大学のプレゼンスの向上にも繋がるので有り難い。
- 評価に用いる方法や資料について、もっと具体的な例示があると助かる。

##### (評価担当者)

- 認証評価と選択評価を同時に受ける場合、訪問調査において選択評価についての確認が十分実施できるか等、課題があるのではないかと思った。

# 参 考 资 料

## 参考資料 目次

1	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【対象校】	21
2	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【評価担当者】	25
3	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （自由記述）【対象校】	28
4	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （自由記述）【評価担当者】	33
5	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート 【対象校】（大学用）	37
6	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート 【評価担当者】（大学用）	52

※ なお、アンケートの自由記述については、原則、原文をそのまま掲載した。（ただし、具体の大学や個人等が明らかに特定されるものや、評価に直接関係ないと思われる記述については文章を改めている。）

平成28年度実施選択評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【対象校】  
【大学】

機関-	① 今回受けた選択評価事項	A	3
		B	6

【2:あった 1:なかった】

機関-	③ 現在の選択評価事項A、B、Cの他に、設けることが望ましい選択評価事項があった	2	1	計	平均	未回答
		0	6	6	1	1
		0%	100%	100%		

1. 選択評価事項及び観点について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関1-	① 選択評価を設けたことは適切であった	4	3	0	0	0	7	4.57	0
		57%	43%	0%	0%	0%	100%		
機関1-	② 「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」、「教育の国際化の状況」を選択評価事項として設定したことは適切であった	A	3	0	0	0	3	5	0
		B	6	1	0	0	7	4.86	0
		86%	14%	0%	0%	0%	100%		
機関1-	③ 対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	A	3	0	0	0	3	5	0
		B	5	2	0	0	7	4.71	0
		71%	29%	0%	0%	0%	100%		
機関1-	④ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立てるために適切であった	A	3	0	0	0	3	5	0
		B	5	1	1	0	7	4.57	0
		71%	14%	14%	0%	0%	100%		
機関1-	⑤ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立てるために適切であった	A	2	1	0	0	3	4.67	0
		B	3	3	1	0	7	4.29	0
		43%	43%	14%	0%	0%	100%		
機関1-	⑥ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	A	2	0	1	0	3	4.33	0
		B	4	2	1	0	7	4.43	0
		57%	29%	14%	0%	0%	100%		

【2:ある 1:ない】

機関1-	⑦ 自己評価しにくい選択評価事項又は観点がかった	A	2	1	計	平均	未回答
			0	3	3	1	0
		0%	100%	100%			
		B	0	7	7	1	0
0%	100%		100%				
機関1-	⑧ 現行のものに加え、追加すべき観点がかった	A	1	2	3	1.33	0
			33%	67%	100%		
		B	0	7	7	1	0
			0%	100%	100%		

2. 評価の方法及び内容について

(1) 自己評価について

【2:迷った 1:迷っていない】

機関2-(1)-	① 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	A	2	1	計	平均	未回答
			0	3	3	1	0
		0%	100%	100%			
		B	0	7	7	1	0
0%	100%		100%				

(2) 訪問調査等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関2-(2)-	① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	A	2	0	1	0	0	3	4.33	0
			67%	0%	33%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	B	3	2	2	0	0	7	4.14	0
			43%	29%	29%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	A	1	1	1	0	0	3	4	0
			33%	33%	33%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	B	2	3	2	0	0	7	4	0
			29%	43%	29%	0%	0%	100%		

(3) 意見の申立てについて

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(3)-	① 総じて、意見の申立ての実施方法等は適切であった	2	2	1	1	0	6	3.83	1
		33%	33%	17%	17%	0%	100%		

3. 評価の作業量、スケジュール等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-	① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった	1	3	3	0	0	7	3.71	0
		14%	43%	43%	0%	0%	100%		

4. 説明会・研修会等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関4-	① 総じて、説明会・研修会等は適切であった	1	4	2	0	0	7	3.86	0
		14%	57%	29%	0%	0%	100%		

5. 評価結果(評価報告書)について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関5-	① 評価報告書の内容は、対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立つものであった	A	2	1	0	0	0	3	4.67	0
			67%	33%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	② 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	B	5	1	1	0	0	7	4.57	0
			71%	14%	14%	0%	0%	100%		
機関5-	③ 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった	A	2	1	0	0	0	3	4.67	0
			67%	33%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	④ 評価報告書の内容は、対象校の目的に照らし適切なものであった	B	3	2	2	0	0	7	4.14	0
			43%	29%	29%	0%	0%	100%		
機関5-	⑤ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	A	2	1	0	0	0	3	4.67	0
			67%	33%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	⑥ 評価報告書の内容は、対象校の規模等(資源・制度など)を考慮したものであった	B	5	2	0	0	0	7	4.71	0
			71%	29%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた	A	2	0	1	0	0	3	4.33	0
			67%	0%	33%	0%	0%	100%		
機関5-	⑧ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった	B	4	2	0	1	0	7	4.29	0
			57%	29%	0%	14%	0%	100%		
機関5-	⑨ 評価結果において、達成状況等を4段階の判断で示すという方法は適切であった	A	2	1	0	0	0	3	4.67	0
			67%	33%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	⑩ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	B	2	3	1	1	0	7	3.86	0
			29%	43%	14%	14%	0%	100%		
機関5-	⑪ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	A	2	1	0	0	0	3	4.67	0
			67%	33%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	⑫ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	B	4	2	1	0	0	7	4.43	0
			57%	29%	14%	0%	0%	100%		
機関5-	⑬ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	A	2	0	1	0	0	3	4.33	0
			67%	0%	33%	0%	0%	100%		
機関5-	⑭ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	B	4	2	1	0	0	7	4.43	0
			57%	29%	14%	0%	0%	100%		
機関5-	⑮ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	A	3	3	1	0	0	7	4.29	0
			43%	43%	14%	0%	0%	100%		
機関5-	⑯ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	B	3	1	1	0	0	5	4.4	2
			60%	20%	20%	0%	0%	100%		

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関6-(1)-	① 対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立った	A	2	0	1	0	0	3	4.33	0
			67%	0%	33%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	② 対象校の教育研究活動等の改善に役立った	B	4	2	1	0	0	7	4.43	0
			57%	29%	14%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	② 対象校の教育研究活動等の改善に役立った	A	2	0	1	0	0	3	4.33	0
			67%	0%	33%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	② 対象校の教育研究活動等の改善に役立った	B	2	3	2	0	0	7	4	0
			29%	43%	29%	0%	0%	100%		

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関6-(2)-	① 対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立つ	A	2	1	0	0	0	3	4.67	0
			67%	33%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	② 対象校の教育研究活動等の改善を促進に役立つ	B	4	1	1	0	0	6	4.5	0
			67%	17%	17%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	② 対象校の教育研究活動等の改善を促進に役立つ	A	2	1	0	0	0	3	4.67	0
			67%	33%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	③ 対象校の学生や社会からの理解と支持が得られる	B	3	3	1	0	0	7	4.29	0
			43%	43%	14%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	③ 対象校の学生や社会からの理解と支持が得られる	A	1	2	0	0	0	3	4.33	0
			33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	③ 対象校の学生や社会からの理解と支持が得られる	B	3	3	1	0	0	7	4.29	0
			43%	43%	14%	0%	0%	100%		

7. 評価結果の活用について

(1) 今回の評価(機構の評価結果だけでなく、対象校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。)を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項(または実施済みの事項)について、

(省略)

(2) 対象校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。(複数回答可)

- 1 対象校の広報誌に評価結果を掲載する。
- 2 対象校のウェブサイトで評価結果を公表する。
- 3 資金獲得のための申請書に記載する。
- 4 学生募集の際に用いる。
- 5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。
- 6 その他(具体的に)

1	2	3	4	5	6
1	6	1	2	0	1

平成28年度実施選択評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【評価担当者】

【大学】

評1-	① 今回、評価を担当された選択評価事項について	A	4	2	1	計	平均	未回答
		B	10					
評1-	② 現在の選択評価事項A、B、Cの他に、設けることが望ましい選択評価事項があった			1	9	10	1.1	0
				10%	90%	100%		

1. 選択評価事項及び観点について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

							計	平均	未回答
		5	4	3	2	1			
評1-	① 選択評価を設けたことは適切であった	5	4	3	2	1	11	4.27	0
		45%	36%	18%	0%	0%	100%		
評1-	② 「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」、「教育の国際化の状況」を選択評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	A	3	1	0	0	4	4.75	0
		B	3	5	2	0	0	10	4.1
		75%	25%	0%	0%	0%	100%		
		30%	50%	20%	0%	0%	100%		
評1-	③ 対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	A	2	2	0	0	4	4.5	0
		B	2	6	2	0	0	10	4
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
		20%	60%	20%	0%	0%	100%		
評1-	⑤ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立てるために適切であった	A	2	0	1	0	3	4.33	1
		B	3	3	3	0	0	9	4
		67%	0%	33%	0%	0%	100%		
		33%	33%	33%	0%	0%	100%		
評1-	⑥ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立てるために適切であった	A	2	1	1	0	4	4.25	0
		B	2	6	2	0	0	10	4
		50%	25%	25%	0%	0%	100%		
		20%	60%	20%	0%	0%	100%		
評1-	⑦ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	A	2	1	1	0	4	4.25	0
		B	2	5	3	0	0	10	3.9
		50%	25%	25%	0%	0%	100%		
		20%	50%	30%	0%	0%	100%		

【2: ある 1: ない】

							計	平均	未回答
		2	1						
評1-	⑧ 評価しにくい評価事項又は観点が合った	A	0	4	4	1	0		
		B	1	9	10	1.1	0		
		0%	100%	100%					
		10%	90%	100%					
評1-	⑨ 現行のものに加え、追加すべき観点が合った	A	0	4	4	1	0		
		B	1	9	10	1.1	0		
		0%	100%	100%					
		10%	90%	100%					

2. 評価の方法及び内容・結果について

(1) 自己評価書について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

							計	平均	未回答
		5	4	3	2	1			
評2-(1)-	① 対象校の自己評価書は理解しやすかった	A	0	4	0	0	4	4	0
		B	2	6	1	1	0	10	3.9
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
		20%	60%	10%	10%	0%	100%		
評2-(1)-	② 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	A	1	3	0	0	4	4.25	0
		B	2	7	1	0	0	10	4.1
		25%	75%	0%	0%	0%	100%		
		20%	70%	10%	0%	0%	100%		

## (2) 書面調査について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評2-(2)-	① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	A	2	2	0	0	0	4	4.5	0
			50%	50%	0%	0%	0%	100%		
		B	1	8	1	0	0	10	4	0
			10%	80%	10%	0%	0%	100%		
評2-(2)-	② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	A	0	0	2	2	0	4	2.5	0
			0%	0%	50%	50%	0%	100%		
		B	0	1	4	5	0	10	2.6	0
			0%	10%	40%	50%	0%	100%		

## (3) 訪問調査について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評2-(3)-	① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	A	1	3	0	0	0	4	4.25	0
			25%	75%	0%	0%	0%	100%		
		B	2	5	2	0	0	9	4	0
			22%	56%	22%	0%	0%	100%		

## (4) 評価結果について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評2-(4)-	① 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	A	1	2	1	0	0	4	4	0
			25%	50%	25%	0%	0%	100%		
		B	5	4	1	0	0	10	4.4	0
			50%	40%	10%	0%	0%	100%		

## 3. 研修について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評3-	① 総じて、研修は適切であった		2	5	3	0	0	10	3.9	1
			20%	50%	30%	0%	0%	100%		

## 4. 評価の作業量、スケジュール等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評4-	① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった		1	6	3	0	0	10	3.8	1
			10%	60%	30%	0%	0%	100%		

5. 評価全般について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評5-	① 今回の評価によって対象校の個性の伸長と特色の明確化に役立つと思う	A	0	4	0	0	0	4	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
評5-	② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善に役立つと思う	A	3	6	1	0	0	10	4.2	0
		B	30%	60%	10%	0%	0%	100%		
評5-	③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う	A	0	4	0	0	0	4	4	0
		B	0	9	1	0	0	10	3.9	0
評5-	④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた	A	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		B	1	6	3	0	0	10	3.8	0
評5-	⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	A	0	75%	25%	0%	0%	100%		
		B	10%	60%	30%	0%	0%	100%		
評5-	⑥ 総じて機構の選択評価事項に係る評価を経験できてよかった	A	1	1	2	0	0	4	3.75	0
		B	25%	25%	50%	0%	0%	100%		
評5-	⑥ 総じて機構の選択評価事項に係る評価を経験できてよかった	A	2	4	4	0	0	10	3.8	0
		B	20%	40%	40%	0%	0%	100%		
評5-	⑥ 総じて機構の選択評価事項に係る評価を経験できてよかった	A	1	2	1	0	0	4	4	0
		B	25%	50%	25%	0%	0%	100%		
評5-	⑥ 総じて機構の選択評価事項に係る評価を経験できてよかった	A	2	5	3	0	0	10	3.9	0
		B	20%	50%	30%	0%	0%	100%		
評5-	⑥ 総じて機構の選択評価事項に係る評価を経験できてよかった	A	9	1	1	0	0	11	4.73	0
		B	82%	9%	9%	0%	0%	100%		

## 選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】 （大学）

### ② 選択評価事項に係る評価を受けた理由について

- ・ 平成 28 年度からの第 3 期中期目標期間を迎える際に、国が設定する重点支援の枠組みにおいて、本学では地域貢献型の枠組みを選択し、これまで以上に地域を志向することを明確化した。
- ・ 従来からの様々な地域貢献活動もあるが、より地域を志向するにあたり、新たな試みを開始する中で認証評価の受審時期を迎え、個性の伸長に資する目的もあり選択評価 B（地域貢献活動の状況）を受審することとした。公立大学である本学の目的は、教育、研究、地域貢献にある。四年制大学となり 20 年近くを経るなかで、さまざまな地域連携活動を行ってきた。そこで、外部の視点から、本学の地域貢献活動を客観的な検証を受け、どのように評価されるのかを認識することは、今後の地域貢献の方向性とその内容を考えるうえで重要と判断し、選択評価を受けることとした。
- ・ 「地域貢献」は本学の重要なテーマであるため。
- ・ 選択評価事項 A：本学の基本理念で目標として掲げてきた「高度研究型大学」としての取組みを点検・評価するため
- ・ 選択評価事項 B：公立大学の重要な使命である地域貢献活動の取組みを点検・評価するため本学は、新設大学であり、認証評価機関の選択評価を受審することで、今後の大学運営における指針とするため。
- ・ 公立大学としての立場から、率先して地域課題の解決に取り組み、地域に貢献することが求められていることから、選択評価事項 B「地域貢献活動の状況」を受審した。
- ・ 大学院の拡充や教員の学位取得促進等を進めてきたので、今後の大学の研究活動をいっそう活性化させるための指針を得るため。  
公立大学として地域貢献を重視してきたので、今後の社会貢献の方向性検討に必要な指針を得るため。

### 1. 選択評価事項及び観点について

#### ⑧ 現行のものに加え、追加すべき評価事項及び観点について

- ・ 研究成果の評価に際しては、大学が任意に選択した成果（論文等）をリストアップするのではなく、全成果をリストアップするほうがよいと考える。

#### ○ 選択評価事項及び観点についての意見、感想等

- ・ 選択評価事項はどの項目も大学の地域貢献活動の特徴を把握し、提示するために適切であると思われ、観点も内容を整理するために問題はなかった。
- ・ 選択評価事項の趣旨が具体的に示されていたこと、また基本的な観点が適切に設置されていたことから、自己評価書の作成は比較的円滑に行えた。
- ・ 従来、評価に必要な情報の整備には心がけてきたつもりであったが、改めて自己評価してみると不足

に気づかされた。

ただし、発表論文の数は数えられても、質を評価することは難しい。論文数を量的に評価するにしても、教員一人あたりどれくらいであれば「研究活動が活発に行われている」と自己評価してよいのか、あるいは最終評価書でAとかAAとか判断されるのか、基準が示されていない。基準があれば、これに照らして納得するとか異議を申し立てるとかいう判断も可能だが、基準が示されぬまま、最終的に「多い」とか「多いとは言えない」とか評価されるのは、納得がいかない面がある。

また、研究活動は教員個々に、人によって差が大きい。その差が見える化できるような評価方法を取られることが望ましい。

## 2. 評価の方法及び内容について

### (1) 自己評価について

#### ○ 自己評価についての意見、感想等

- ・ 地域貢献活動は、大きく地域交流事業と産官学連携事業に分けられる。どちらにおいても、地域連携推進センターを核として、企業や教育機関など外部からの評価を得ていると判断された。
- ・ 本学は公立大学として地域貢献活動を積極的に行っているが、今回の自己評価を通じて個別事例の内容を再整理、再確認できたことは、良い機会であった。

### (2) 訪問調査について

#### ○ 訪問調査等についての意見、感想等

- ・ 書面調査を通じ、本学の自己評価内容を十分理解しておられたので、訪問調査時に効果的な意見交換が行えたと考える。
- ・ 本大学（単科大学）の専門性に詳しい評価委員であったので、説明がしやすかった。  
「書面調査による分析状況」は、各項目において本学の国際化に関する各取組を十分かつ適切に分析していただきました。

### (3) 意見の申し立てについて

#### ○意見の申し立てについての意見・感想

- ・ 評価基準を示されないまま、評価結果を示された場合、かつ異議申し立てをするとそのこと自体が評価書に反映されると言われた場合、評価を受ける側は大変脅かされる。  
特に研究のような場合は、評価の基準を明確に示していただきたい。そのように示されることで次の対応が具体的にできることになる。

### 3. 評価の作業量・スケジュールについて

#### ○ 選択評価に費やした作業量、スケジュール等についてご意見、ご感想等

- ・ 機関別認証評価と同時の受審であったため、十分な時間をあてられなかった。
- ・ 今回が初めての受審であったので、比較することはできないが、作業量は多かったのではないかと考えられる。
- ・ 添付資料の収集、編纂に、一定の時間は要したが、作業量、スケジュール等に特段の問題はなかったと認識している。
- ・ 評価に用いる方法や資料について、もっと具体的な例示があると助かる。

### 4. 説明会・研修会等について

#### ○ 説明会・研修会等についての意見、感想等

- ・ 参加して、具体的な進めかた、ならびに記述内容や、提示すべきデータ等について参考になった。
- ・ 説明会等で配布された資料は要点がわかりやすく示されており、作業時の参考資料として活用した。

### 5. 評価結果（評価報告書）について

#### ○ 評価結果（評価報告書）についてのご意見・ご感想等

- ・ 地域貢献活動の諸分野について、その特性を踏まえた的確な評価、助言、示唆が示されており、今後の地域貢献を考えるうえで有用であると考えます。
- ・ 大学によって、学部構成や大学規模等は異なるため、一律の基準ではなく、各大学の学部構成、規模、理念等に則した基準により評価していただくことが望ましいと考えます。
- ・ 本学の社会貢献に対する取組を適切に評価していただいたと考えている。
- ・ 最終的な評価報告はある程度納得がいくところがあり、今後の参考になった。しかし、前述のとおり評価基準に曖昧さがあり、納得できない点があっても、異議申し立ての根拠がないことになるので、できるだけ定量的な評価基準を示すことを要望する。  
また、教員の生産量が見える化できるような評価方法について工夫がなされることを要望する。

### 6. 評価を受けたことによる効果・影響について

#### (1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

#### ○ 自己評価を行ったことによる効果・影響に関連しての意見、感想等

- ・ 平成 28 年度の自己評価の効果については、現状ではまだ明らかであるとはいえない。
- ・ 主な優れた点について、貴機構から積極的な情報発信をいただくと、本学のプレゼンスの向上にも繋がるので有り難いです。選択評価を受審することで、本学としてのこれまでの取組み内容が、外部機関からの評価では、どのような評価を受けるのかを確認でき、今後の大学運営を決定するための参

考となると考えます。

- ・ 公立大学として積極的に地域貢献活動を行ってきたが、詳細な分析・評価は実施していなかったことから、今回の選択評価事項Bでの自己評価は良い機会になったと考える。
- ・ 評価結果を受けての改革等は、直ちに提案できるものと時間を要するものがあり、この回答時点ではまだ提案に至っていない部分がある。

## (2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

### ○ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連しての意見、感想等

- ・ 平成28年度の自己評価の効果については、現状ではまだ明らかであるとはいえない。
- ・ 公立大学として継続的に社会貢献活動を展開していく予定としているが、貴機構から示された基本的観点の留意点や根拠資料等の例を参考にして、学内における自己評価活動の充実を図っていきたいと考えている。
- ・ 地方独立行政法人として定期的に受ける評価には影響する可能性があるかと予測している。本学ウェブサイトへの掲出をはじめ、今後大学で発行する印刷物や様々な媒体で積極的に公表していく予定です。

## 7. 評価結果の活用について

### ① 今回の評価を契機として、何らかの変更・改善を予定しているもの（又は実施済みのもの）について

#### ○ 主要な変更・改善事項及び変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度について

※参考度：【5：非常に参考になった～3：参考になった～1：あまり参考にならなかった】

(評価事項A)

- ・ 【課題】 評価結果において「更なる向上が期待される点」と指摘された事項【選択A】研究行動規範の全教職員への浸透  
【変更・改善】 行動規範リーフレット（日本語版・英語版）を作成し、全教職員に周知・配付。【5】
- ・ 【課題】 自己評価書で「改善を要する点」とした事項【選択A】21世紀科学研究機構の各研究所の研究成果の検証  
【変更・改善】 平成29年度の改善事項として決定し、改善計画に盛り込む。(5月確定予定)【5】
- ・ 【課題】 研究活動が活発に行われているものの、国際会議や全国規模の学会での発表件数等、教員1人当たりの研究成果が少ない。【4】
- ・ 【課題】 科目間の成績の分布について、組織的な検討がなされていない。  
【変更・改善】 科目別成績分布について調査を実施した。【3】
- ・ 【課題】 学生による授業評価アンケートの結果が学生に公表されていない。  
【変更・改善】 授業評価アンケートの実施方法について検討を開始し、順次実施する計画を立てている。【4】

- ・ 【課題】研究論文数と学会発表数が少なく、必ずしも学術的な期待に十分に込んでいるとはいえない。  
【変更・改善】評価結果を教職員に周知し、必要なFDについても検討を始めた。【3】

(評価事項B)

- ・ 【課題】市・商工会議所との間で締結した「御用聞き型企業訪問実施のための連携に関する協定」による御用聞き型企業訪問は、各企業へ訪問して課題を解決するための提案を行うなど、地域企業の提案型企業創出に貢献する積極的な取組の成果が期待される  
【変更・改善】産官学の連携フォーラムの開催などを継続的に実施し、地域企業の抱える問題や要望に、つねに配慮していく体制を今後も拡充していく【4】
- ・ 【課題】評価結果において「更なる向上が期待される点」と指摘された事項（【選択B】地域住民の学習ニーズの把握、分かりやすく迅速な情報発信）  
【変更・改善】自己評価の要改善点でもあったため、平成29年度の改善事項として決定し、改善計画に盛り込む。(5月確定予定)【5】
- ・ 【課題】自己評価書で「改善を要する点」とした事項【選択B】学習ニーズの把握、分かりやすくタイムリーな情報発信)  
【変更・改善】平成29年度の改善事項として決定し、改善計画に盛り込む。(5月確定予定)【5】

② 貴校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。以下の該当する番号に○を付けるか、下の回答欄に番号を記入してください。（「6. その他」を選択した対象校の記述内容）

- ・ 設置団体に予算確保等について働きかける。

## 8. その他

### ○選択評価についてのご意見、ご感想等

- ・ 本学が展開している地域貢献活動の特色を明確にさせていただいたと考えている。今回の評価手法を学内における評価活動の充実に活かしたいと考えている。

## 選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）

### 【評価担当者】（大学）

#### ○設けることが望ましい選択評価事項

- ・ 大学のガバナンスとリーダーシップ

#### 1. 選択評価事項及び観点について

##### ⑧ 評価しにくい選択評価事項又は観点について

- ・ 研究不正等のコンプライアンスに関する取扱いを今後、どうするか。  
今回は、
  - ・ 事後の再発防止による結果、再発したら×、再発しなければ不問かー
  - ・ 未然防止があれば、むしろ○を提案しましたが、これで良いかの否か。

##### ⑨ 追加すべき観点について

- ・ 現状では地域貢献に関する項目が主体ですが、今後は自己収入による大学経営を考えるにあたって、産学（官）連携（協創）に関わる事項がより充実しても良いのではないかと思います。
- ・ 大学の国際的通用性の向上への取り組みと水準（例えば、I B入試の取り組み、国際的認証評価受審など）日本の大学としてのみならずアメリカの大学としても通用することを意味する。

#### ○選択評価事項及び観点についての意見・感想等

- ・ 選択評価事項Aの社会・経済・文化に関連する研究活動が、選択評価事項Bの地域貢献活動の成果にも重なるため、何らかの棲み分けが必要ではないか。

B-1-① 大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

↓

B-1-② 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

||

★大学では研究を介した地域貢献活動が多いため、その結果として活動成果が選択基準事項の

A-2-③ 社会・経済・文化に領域における研究成果の活用状況や関連組織、団体からの評価等から判断して、社会・経済・文化の発展に資する研究が行われているか。にも該当

↓

B-1-③ 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

↓

B-1-④ 改善のための取組が行われているか。

## 2. 評価の方法及び内容・結果について

### (1) 自己評価書について

#### ① 対象校の自己評価書の理解しにくかった点について

- ・ データを纏めた表や自己分析の結果が自己評価書に記載されていない。

#### ○ 自己評価書の様式についての意見、感想等

- ・ 自己評価書の作成の仕方に関する説明会において、対象校からの参加者に特に留意すべき項目を強く説明されるしかないかもしれませんが、模範となる過去の自己評価書の書き方のサンプルを示すことができれば、評価を受ける側も大いに参考にされるかと思います。(もし、すでにそのような措置を取られているようでしたら、無視して頂いて結構です。)

### (2) 書面調査について

#### ① 機構が示した書面調査票等の様式の記入しにくかった点について

- ・ 地域社会貢献に対する評価の枠組が十分に整備されていなかった点

#### ② どのような情報(客観的データ等)があればよかったかについて

- ・ 留学生の意見などのアンケート調査結果
- ・ 海外留学する学生のアンケート調査結果

### (3) 訪問調査について

#### ○ 訪問調査についての意見、感想等

- ・ 書面調査で完結していましたので、訪問調査時の確認事項はありませんでした。よって(-)にしています。
- ・ 選択Bについては、訪問調査時に機関別の主査との調整、及び担当事務職員間(認証と選択)の共通認識、調査チームの意思疎通が重要。選択Cについては、別途単独チームで実施できたので、時間的にも、また確認内容の認識が共通しておりスムーズに調査が実行できた。(機構の業務としては珍しいくゆとりのある作業ができた。)
- ・ 認証評価と選択評価を同時に受ける場合、訪問調査において選択評価についての確認が十分実施できるか等、課題があるのではないかと思った。
- ・ 訪問調査時に、選択に関する面談質問事項の時間があまりありませんでしたので、併せて行った基準の評価の面談に加えて質問を行いました。

### (4) 評価結果について

#### ○ 評価結果についての意見、感想等

- ・ 結果的に十分反映されたと思いますが、絶対的指標がないので、相対的評価になった感があります。
- ・ 選択Bについては、4段階評価を行う際、受審大学の国公私区分、規模、構成学部等、大学個別の

特徴にある程度の配慮が必要となり、相対評価と絶対評価のバランスが求められる。過去の評価結果の蓄積が相対評価の基準の一つとして重要となる。選択B評価では、その蓄積がかなりなされてきており評価判断の基準が確立しつつある印象である。

選択Cについては、達成目標と3項目の水準判断における4段階評価に対して、過去における評価結果実績が必ずしも多くないので、今の時点では結果の蓄積の段階と考えられる。

いずれにしても、どこかの時点で過去の評価結果の実績を分析・分類することにより、一層精度の高い段階評価ものさしの目盛り作りが可能となるだろう。

- ・ 評価結果が十分に反映されたと思います。

### 3. 研修について

#### ○ 研修についての意見、感想等

- ・ 選択基準事項Bは、経験を積み重ねることで、参照可能な良いモデルへ仕上がって行くと思われま
- ・ 調整は困難かと思いますが、もう少し短時間でも良いのではないかと思います。
- ・ 今回初めての選択評価の担当となりましたので研修での説明で、理解不足の点もありました。その後のメールでのやり取りで確認をさせていただきましたので、何とか責任を果たすことができたと思っています。

### 4. 評価の作業量、スケジュール等について

#### ○ 評価に費やした作業量、スケジュール等についての意見、ご感想等

- ・ 選択評価事項Bの地域貢献活動に対して、他の申請校と比較しながら、構造的な評価に資するメンタル・モデルを作るのに苦慮した。
- ・ 主査を担当した大学の選択評価では、評価結果の原案等の作成で時間を要しましたが、スケジュール的にはそれほど厳しくはありませんでした。

### 5. 選択評価全般について

#### ○ 選択評価全般（評価に携わっていただいていたことも含め）についての意見、感想等

- ・ 公立大学の多くは、研究活動の水準判定可能な第三者評価機関として、大学改革支援・学位授与機構に期待しており、社会貢献に係わる選択評価事項を有する社会的意義は大きいと感じます。また、公立大学の設置理由の1つとして、設置者の地域への貢献は不可欠であり、それを証す第三者評価機関として、貴機構からのお墨付きは必須と考えられます。
- ・ (1) 部会運営について  
今年度より選択評価事項専門部会が設置され機関別認証から独立して選択事項の評価をすべてに担った。部会として選択項目の位置づけが明確になり、横並びで相対的に一つの土俵で集中的に検討できる点は、評価の信頼性・妥当性を担保するに利点がある。但し、円滑な部会運営のためには（本年度8大学11事項の受審があり、部会長の処理容量を超える？）選択主査間、A、Bについては認証評価主査と選択項目主査間、更に担当事務職員間との共通認識の確保が重要になる。

## (2) 選択事項Bについての課題

選択事項Bは正規課程以外の教育に対する評価、いわゆる公開講座等の地域貢献活動に対する事項として位置づけられたものであり、主として公立大学の教育活動が想定されていた。但し、現在国策としての「地方創生」の中で、国立大学においても地域貢献を目的とする大学が55校となり、正規教育プログラムの中に地域貢献に資する科目が位置づけられている。近年設置の国公私の学部、学群、学科等の中には地域を冠するものが新設され、この選択Bの評価対象範囲がゆれ始めている。機関別認証で正規課程の教育評価対象とするものと選択Bでのそれとの区別について議論を始める時期なのかもしれない。第3巡目では、これらの流れを踏まえると選択評価事項の見直しも検討する必要があるのかもしれない。

- ・ 認証評価と選択評価を同時に受ける場合、評価する側・評価される側どちらにとっても効率的ではあるが、課題も多いように思われた。
- ・ 選択評価にかける時間は、評価部会の認証評価全体のなかで少なかった。選択評価の位置づけがいまひとつ理解しづらいと思います。
- ・ 選択評価を各大学が進んで行うことはとても良いことと思いますし、評価結果を各大学が次の活動に生かす取組は、まさにPDCAのサイクルかと思えます。今回初めて選択評価を担当し、一大学の主査を務めさせていただきましたが、評価の客観的判断が難しいと思いました。基本的には優れた点をできるだけ取り上げて評価する観点で作業をさせていただきましたが、大学の規模もいろいろですので、今後大学規模で何かの基準指標が構築されると評価委員の判断がしやすくなるかと思えます。
- ・ 訪問調査が2日と限られていますので、その間に基準と選択の評価を纏めて行うことは時間的に難しいかと思いますが、少し工夫が必要な感じが致します。

**平成28年度実施選択評価に関する検証のためのアンケート**

**選択評価を受けた対象校のみお答えください。**

- ① 今回、受けた選択評価事項について、該当するものに○をお付けください

・ 選択評価事項A「研究活動の状況」	
・ 選択評価事項B「地域貢献活動の状況」	
・ 選択評価事項C「教育の国際化の状況」	

- ② 選択評価を受けた理由をご記入ください

- ③ 現在の選択評価事項A、B、Cの他に、設けることが望ましい選択評価事項があった.....

	あった	なかった	
2	1		

→※③について、2とご回答いただいた場合、設けることが望ましい選択評価事項についてご記入ください。

# 1. 選択評価事項及び観点について

当機構が設定した選択評価事項及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である各大学の「個性の伸長及び特色の明確化」、教育研究活動等の「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

強く どちらも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 選択評価を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」、「教育の国際化の状況」を選択評価事項として設定したことは適切であった-----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

③ 貴校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

④ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、貴校の個性の伸長及び特色の明確化に役立てるために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑤ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立  
 てるために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑥ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等について社会  
 から理解と支持を得るために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑦ 自己評価しにくい選択評価事項又は観点があつた -----

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	
C	2	1	

→※⑦について、2とご回答いただいた場合、どの選択評価事項又は観点が自己評価しにくかつたかをご記入  
 ください。

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	
C	2	1	

⑧ 現行のものに加え、追加すべき観点があった -----

→※⑧について、2 とご回答いただいた場合、追加すべき選択評価事項及び観点についてご記入ください。

・ 選択評価事項及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 2. 評価の方法及び内容について

評価の方法及び内容について、(1) 自己評価、(2) 訪問調査等、(3) 意見の申立ての3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### (1) 自己評価について

	迷った	迷っていない	
A	2	1	
B	2	1	
C	2	1	

- ① 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った

→※①について、2とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

--

- ・自己評価についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

(2) 訪問調査等について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

・訪問調査等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3)意見の申立てについて

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 総じて、意見の申立ての実施方法等は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・意見の申立てについてご意見、ご感想等をご記入ください。





## 5. 評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）について、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 評価報告書の内容は、貴校の個性の伸長及び特色の明確化に役立つものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

② 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった--

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

③ 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

④ 評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

⑤ 評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

⑥ 評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度等）を考慮したものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた-----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

⑧ 評価報告書の構成及び内容はわかりやすいものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点がわかりにくかったかをご記入ください。

--

⑨ 評価結果において、目的の達成状況等を4段階の判断で示すという方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑩ **選択評価事項Cを受けた対象校のみお答えください**

評価結果において、「国際的な教育環境の構築」、「外国人学生の受入」、「国内学生の海外派遣」の各項目について、一般的な水準から4段階で判断を示すという方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑪ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・評価結果（評価報告書）についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

## 6. 評価を受けたことによる効果・影響について

評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と機構の評価結果を受けての効果・影響とに分けて質問しますので、それぞれお答えください。(具体の活用例、改善例については、別途「7. 評価結果の活用について」で質問します。)

### (1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 貴校の個性の伸長及び特色の明確化に役立った -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

② 貴校の教育研究活動等の改善に役立った -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

・選択評価について自己評価を行ったことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想等がありましたらご記入ください。

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 貴校の個性の伸長及び特色の明確化に役立つ -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

② 貴校の教育研究活動等の改善に役立つ -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

③ 貴校の学生や社会からの理解と支持が得られる -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

・機構の選択評価結果による効果・影響に関連してご意見、ご感想がありましたら、ご記入ください。

## 7. 評価結果の活用について

- ① 今回の評価（機構の評価結果だけでなく、貴校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）がありましたら、その主要な事項について、簡潔にご記述ください。

また、その変更・改善の際に、今回の評価はどの程度参考になったかを5段階でお答えください。

特に、評価結果において「改善を要する点」として指摘を受けた事項について、変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）がありましたら、必ずご記述ください。

**注：本質問は、機構の評価がどの程度対象校の改善に活用されているかを把握することにより、評価方法の改善を図ろうとするものです。貴校の変更・改善の取組状況自体を評価することを目的とするものではありません。**

非常に 参考に あまり参考に  
参考になった ← なった → ならなかった  
(5) (3) (1)

課題	(記入例) 【評価事項 A】研究活動を実施するために必要な体制の整備を加速させる必要がある。	5	4	3	2	1	3
変更・改善	各キャンパスの研究活動の現状を調査・検証し、体制の基盤づくりをしている。						
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							

※必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしてください。

- ② 貴校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。以下の該当する番号に○を付けるか、下の回答欄に番号を記入してください。（複数回答可）

1	貴校の広報誌に評価結果を掲載する。	2	貴校のウェブサイトで評価結果を公表する。
3	資金獲得のための申請書に記載する。	4	学生募集の際に用いる。
5	共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。		
6	その他（具体的に） ( )		

回答欄	
-----	--

## 8. その他

- ・ 選択評価についてのご意見、ご感想があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

**評価担当者**

(大 学 用)

**平成28年度実施選択評価に関する検証のためのアンケート**

**選択評価を担当された方のみお答えください。**

① 今回、評価を担当された選択評価事項について、該当するものに○をお付けください

・ 選択評価事項A「研究活動の状況」	
・ 選択評価事項B「地域貢献活動の状況」	
・ 選択評価事項C「教育の国際化の状況」	

あった	なかった	
2	1	

② 現在の選択評価事項A、B、Cの他に、設けることが望ましい選択評価事項があった -----

→※②について、2とご回答いただいた場合、設けることが望ましい選択評価事項についてご記入ください。

# 1. 選択評価事項及び観点について

当機構が設定した選択評価事項及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である各大学の「個性の伸長及び特色の明確化」、教育研究活動等の「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 選択評価を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」、「教育の国際化の状況」を選択評価事項として設定したことは適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

③ 対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった ----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

④ **選択評価事項Cの評価担当者のみお答えください**  
 「国際的な教育環境の構築」、「外国人学生の受入」、「国内学生の海外派遣」の各項目について、一般的な水準から判断を示すという方法は適切であった-----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑤ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立っているために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑥ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立てるために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑦ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑧ 評価しにくい選択評価事項又は観点があった -----

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	
C	2	1	

→※⑧について、2とご回答いただいた場合、どの選択評価事項又は観点が評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	
C	2	1	

⑨ 現行のものに加え、追加すべき観点があった -----

→※⑨について、2 とご回答いただいた場合、追加すべき選択評価事項及び観点についてご記入ください。

・選択評価事項及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 2. 評価の方法及び内容・結果について

評価の方法及び内容・結果について（１）自己評価書、（２）書面調査、（３）訪問調査、（４）評価結果の４項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### （１）自己評価書について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※①について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

② 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※②について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

・自己評価書の様式についてご意見、ご感想等をご記入ください（特に対象校に事前に伝えたい点、様式上の事項として不足のあった点等があればお聞かせください）。

(2) 書面調査について

強く    どちらとも    全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5)        (3)        (1)

① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

・ 書面調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3) 訪問調査について

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

・ 訪問調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(4) 評価結果について

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された ---

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

・評価結果についてご意見、ご感想等をご記入ください。

### 3. 研修について

機構が実施する研修について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 総じて、研修は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 研修についてご意見、ご感想等をご記入ください。



## 5. 評価全般について

選択評価を行ったことによる効果・影響等、評価全般について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

- ① 今回の評価によって対象校の個性の伸長と特色の明確化に役立つと思う ---

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

- ② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善に役立つと思う -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

- ③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

- ④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

- ⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

- ⑥ 総じて機構の選択評価事項に係る評価を経験できてよかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・選択評価全般（選択評価に携わっていただいて感じたことも含め）についてご意見、ご感想等をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。